

月曜日

19

きょうのみことば

使徒 14:19 ~ 28

ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群集を抱き込み、パウロを石打にし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入って行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。
(19 20)

神様の愛をわかつあおう！

エミがある日、机のひきだしを見たら、ふうせんがいっぱい入っていました。パパがプレゼントで、こっそりと入れてくれたのです。エミは、たくさんのふうせんをどうしようかと、なやみました。

「そうだ。おともだちに分けてあげればいい！」

エイは、カバンいっぱいふうせんを入れて、ともだちに分けてあげました。

「ありがとう。エミ！」

ともだちのことばに、エミは雲の上をふわふわ浮いている気がしました。

レムナントのみなさん、エミのようにたくさん持つていれば、分けてあげることができます。なにを分けてあげられるでしょう。神様の愛です。どのように分けてあげるのでしょうか。かんたんんです。「草は枯れ、花はしぶむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」というイザヤ 40章8節のみことばのように、永遠な神様のみことばを伝えればよいのです。

「ともだちは、聞かないです。ある子は私を追い出すことされました。神様の愛を伝えたくありません」

福音を伝えてみると、そのようなむずかしい目には当然、あうようになります。しかし、おそれないでください。神様が口一マ 8章39節に、たしかにこのようにおっしゃいました。

「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」

この信仰を持って、今日一日、神様の愛をわかつあうレムナントになってください。



神様の愛を伝えられるように私を先に選んでくださってありがとうございます。神様の愛が必要なともだちのために、私が神様の愛を先に味わう者になるように聖霊で満たしてください。私と私のともだちを愛しておられるイエス様のお名前でお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼12時　教会のために祈りましょう。夜9時　RUTCのために祈りましょう

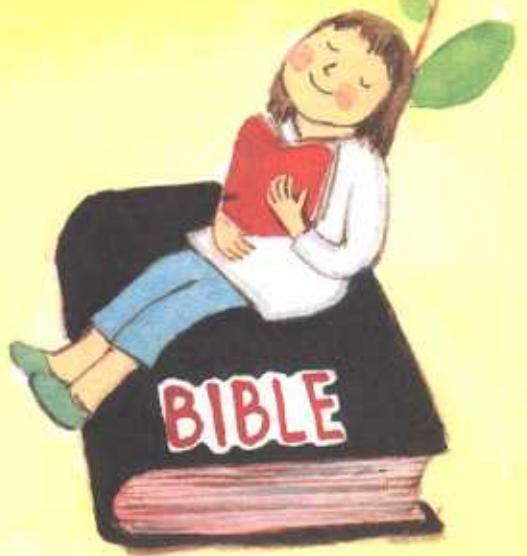


しへん 詩篇119篇

9 ~ 16節

どのようにして若い人は自分の道をきよく守てるでしょうか。
あなたのことばに従ってそれを守ることです。
私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。
どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。
あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。
主よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。
私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。
私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでいます。
私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。
私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。

* 詩篇119篇を一週間ずっと黙想してみてください。神様のみことばが、あたたかく心に入るようになります。
私がどれほどたいせつな、神様の子どもであるのかがわかるようになります。



火曜日
20

きょうのみことば

出 27:20~21

あなたはイスラエル人に命じて、燈火用に上質の純粹なオリーブ油を持って来させ、ともしびを絶えずともしておかなければならない。アロンとその子らは、あかしの箱の前の垂れ幕の外側にある会見の天幕で夕方から朝まで、主の前にそのともしびを整えなければならない。これはイスラエル人が代々守るべき永遠のおきてである。

ひる たいよう 昼には太陽のように、 よる 夜には月のように

マコトの誕生日にあわせて、家族だけで誕生日パーティをしました。家族は誕生日の歌を歌ってケーキのろうそくの火を消しました。ところで、ケーキを切る瞬間、急に家のすべてのあかりが消えました。最初はまくらで、なにも見えませんでした。しかし、少しづつ暗やみに目がなれたら月がマコトの家を明るくてらしていました。

急にあかりが消えるように、レムナントのみなさんにも、靈的な停電になることがあります。それで、おそれてガチガチにかたまって、なにもできなくなります。このような時は、どうすればよいのでしょうか。

祈りのスイッチを上げればよいのです。停電になれば、電気のスイッチをいれてもあかりはつきませんが、祈りのスイッチはキリストの契約をにぎって祈るだけで、いつでもあかり(光)が入ってきます。あかりが目に見えないのでしょうか。靈的だから、もっとそうです。私たちもいっしょに祈りのスイッチをいれて、靈的なあかりを体験してみましょう。

私たちを救ってくださったイエス・キリストに感謝する祈りのスイッチを力チャ!

私たちの家族とともにだちを攻撃する暗やみの勢力を、イエス・キリストの名前で縛る祈りのスイッチを力チャ!

全世界をつかんでいる暗やみの文化が崩れて、RUTC がたてられるように祈りのスイッチを力チャ!

とてもやさしいでしょう。今日から毎日、毎日、定刻で、常時で祈りのスイッチを力チャ、力チャ、入れましょう。

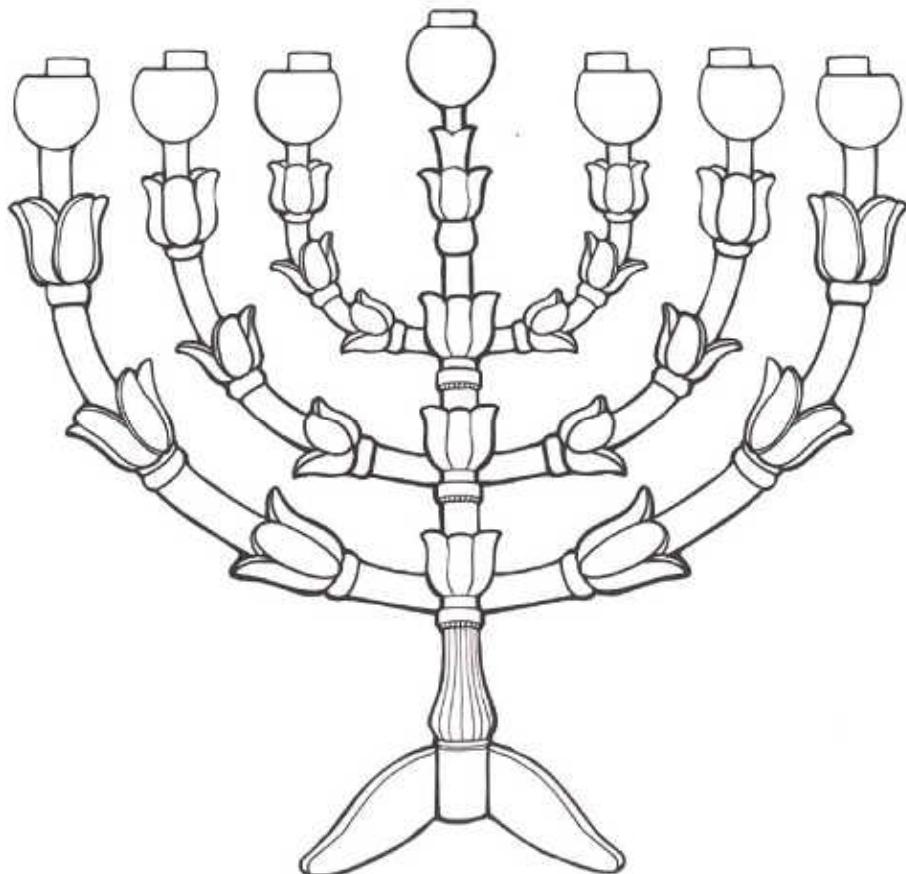


私たちを光の子どもとして立ててくださった神様に感謝します。祈りのスイッチを毎日入れることができるように、聖靈に満たされる新しい力をあたえてください。また、地域と民族と全世界のための RUTC が立られるように働いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※ 定刻祈りの点検：昼12時 教会のために祈りましょう。夜9時 RUTC のために祈りましょう

レムナントのみなさん、祈りのともしび、福音のともしび、
伝道のともしびがたえないように、
金の燭台に火をあかるく輝くように
炎をかいてください

ともしびを
たえず
ともしておかなければ
ならない



水曜日
21

きょうのみことば

ローマ 16:1~2

ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とするることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。

伝道者を助ける人

ユウカの両親は、月曜日から土曜日まで夜に屋台で仕事をしています。それで、ヨリトは両親のためにいやいやながらも、家事を助けて、弟のヨリトのめんどうをみます。ユウカは、両親があそくまでがんばって仕事をする理由が、自分と弟のためだという事實をよく知っていたので、両親のかわりをして、家事もして、弟のせわもしていました。

ところで、聖書にもそのような人物がいました。コリントの近くの都市の人ケンクレヤの女の執事であり、パウロの2次と3次伝道旅行でとても助けてくれたフィベという人です。

フィベは、伝道をよく理解していました。それで、彼女は物やお金で使徒たちの働きを全面的に支援して、愛と労苦をおしみませんでした。パウロは、彼女にたいして伝道者を「助ける人」だとローマ 16章1~2節に明らかにしました。

レムナントのみなさん、フィベのように伝道者を助ける祝福をいっしょに受けてみませんか。

まず、私自身がどれだけ伝道をよく理解しているのか、受け入れのためのメッセージを一度してみてください。それから、私たちのまわりの伝道者の名前を書いておいて、祈りながら、実際的にどんな部分を助けてあげるべきか、具体的に考えながら祈ってみましょう。

神様、わたしに伝道者を助けることができる身分と権威をくださって感謝します。事実的で、具体的にお祈りします。アーメン

◎ 定刻祈りの点検：昼12時

教会のために祈りましょう。夜9時 RUTCのために祈りましょう

おろかなアブラハムと けいやく じょうじゅ 契約の成就

福音の目で見たマンガ聖書解説

また、だよ。
また！おくさんを
いもうと
妹 だなんて、また
うそついたのか

信仰の先祖って
いう人が、なんで
そんなひきょうな
ことができるの？

そうだよ。
わけが
わからん

アブラハムのおくさんのサラは、うつくしい人でした。
それで、アブラハムはいつもしんぱいしていました。ほかの
人がサラをその人のものにするために、アブラハムをころすの
ではないかと思ったのです。
アブラハムのしんぱいどおり、エジプトの王はサラをおくさんにしよう
としました。ゲラルの王もまたサラをおくさんにしたがりました。
ところでア布拉ハムはゆうきを出して「この女はわたしのおくさん
です！」と言えませんでした。ただゲラル王のおしろにつれて
行かれるおくさんのうしろすがたを見つめているだけでした

アブラハムのこのおろかなこうどうのゆえに、サラはゲラルの
王のおくさんになったでしょうか。そうではありません。神様は、
エジプト王のときもそうだったのですが、こんどもちょくせつ、ア布拉ハムの
味方になってくださいました。なにも知らないでサラオをつれてきたゲラルの王に
「あなたとあなたのかけいのすべての人をころす」とおっしゃいました。その上、
そのかけい系の女の人がみんな子どもをうむことができなくさせられました。

ゲラルの王は神様にこうさんするしかなかったのです。

たとえア布拉ハムはおろかなことをくりかえしたようでしたが、神様は
ア布拉ハムをしゅくふくしてくださいました。カナンにぞくしていたゲラルから
おい出されたかわりに、どこにでも住むことができるとっけんを持つようにな
ったのです(創 13:14~17)。そして、ゲラルの王とたみたちにいだいな
神様の力をあかしするようになりました(創 12:3)。

Oh! Yes~

なぜ、神様は
いつも
ア布拉ハムの味方
なんだ？

さいしょのりゆうは、神様がかれをメシヤのせんぞとすることに
きめられたからです。2ばんめは、神様がかれにくださったやくそく
ゆえです(創 12:1~3)。

神様はごじぶんのみことばを、かならずなしとげられる方です(エレミヤ
33:2、ヨブ 23:14)ア布拉ハムがどんなにおろかなこうどうをしても。ふつう
であるどころか、むしろおろかなこうどうをくりかえしても、神様には
もんだいになりませんでした。神様のやくそくだけしきりとにぎったら、
神様はそのやくそくをかならずじょじゅしてくださいます。
おろかで、よわかったのですが、神様にもちいられた人をさらに知りたい
なら、しとパウロのこくはくもよんみてください。
では、らいげづにまたね。(コリント 12:9~10)

木曜日
22

きょうのみことば

コロサイ 2:2~3

それは、この人たちが心に
励ましを受け、愛によって
結び合わされ、理解をもって
豊かな全き確信に達し、
神の奥義であるキリストを
眞に知るようになるため
です。このキリストの
うちに知恵と知識との宝が
すべて隠されているのです。

3つの運動器具で 力をつけよう！

からだに骨がないなら、どうなるでしょう。からだがゼリーのようにぐにやぐにやで、骨がないから腕や足も洗濯のロープにかかった洗濯のように、だらりとするのではないですか。私たちのからだにあるすべてのものがみな重要ですが、中心になる骨がないならば、本当に生活するのがむずかしいでしょう。

からだには重心をとってくれる骨が必要なように、福音の中にも重要な中心がなければなりません。

まさに「今日の伝道」「今日のみことば」「今日の祈り」この三つが先に中心にならなければなりません。そして、この中で「私の人生」「私のタラント」「私の経済」が出てきてこそ、力を持てるようになります。この力がまさに初代教会の信徒が持った隠れた力です。

福音の中で力を大きくすれば、いのちを生かせます。それだけではなく、世の中の文化も福音に変えることができます。

レムナントのみなさん、今日から靈的な運動をすぐにはじめてみませんか。

「今日の福音(伝道)」ランニングマシンを走って、「今日のみことば」アレイを持って、「今日の祈り」自転車に乗って、靈的な力を大きくしてみましょう。私たちが「この三つは、いったいなんだろう」と神様の前で質問するだけでも、神様はかならず答えてくださいます。

靈的兵士として、神様の力を味わうようにさせてくださる神様に感謝します。今日の福音(伝道)、今日のみことば、今日の祈りを先に考えてから一日をはじめられるように聖靈に満たしてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼12時 教会のために祈りましょう。夜9時 RUTCのために祈りましょう

目の見えない人

「なぜ、こんなことをするのですか？私が見えるようになったのが
目に見えるようになつたので、私をパリサイ人のところにひっぱつてきたのですか」

「あなたが目が見えるようになった男はババタしながら話しました。

「あなたが目が見えるようになった日が何の日かわからぬといふことです！

今日は安息日です！」

目が見えるようになった男はびっくりして、声がするほうを見ました。

パリサイ人たちが目をこわいようにつりあげて、男をにらみつけて
見ていました。

29日につづきます

「イエス様、あの人をちょっと見て下さい。

生まれつき目が見えないそうですよ。

この人がこのように生まれたのはだれの

弟のせいですか。あの人の難でしょか、
親の難でしょか？」

イエス様といっしょに道を行く弟子たちが
生まれつき目が見えない男をさしながら

たずねました。すると、イエス様が

おっしゃいました。

「この人の難でも、彼の親の難でもありません。

この人が生まれつき目が見えないのは、

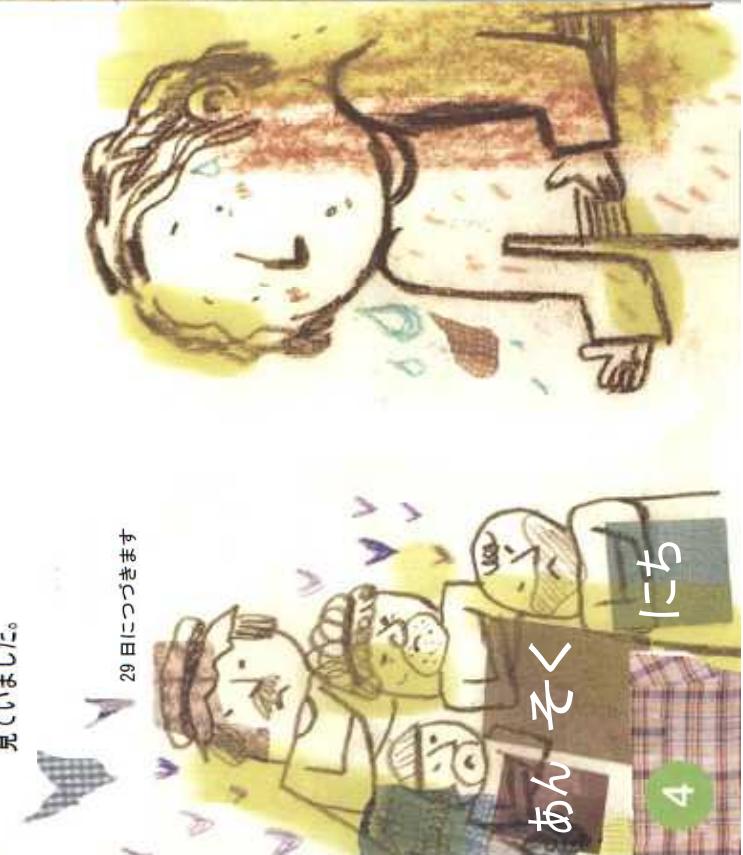
神様が神様の働きをその人を通して預けられためです。

わたしたちは量が従く間、わたしを送られた方の働きを

続けてしなければならない。だれも「働くことができない

後が来るからです。わたしが
世にいるあいだ、わたしは

「世の光です」



イエス様はこのように言われたあと、地面につばを置いて、それでどろにされました。そして、そのどろを、目の見えない人の目にぬってくださいました。

「さあ、今、シロアムの池に行って洗いなさい」

イエス様がおっしゃいました。生まれつき目の見えない男は手さぐりでシロアムの池に出て行きました。手に水をくんで、そうっと目を洗いました。

「あっ！こんなことが！」

人が見えなかつた男は、目をしてとびあがりました。あかるい世の中が目の前に見えたためです。

「まあ、あの人、あの前で、ものごいをしていた人が見えなかつた人じやないの」

「そうですね。人が見えるようになつたよ！」

「なんのはなし！その人じやないよ、ただにいる人だよ」

人々ががやがや言いながら集まつきました。

「私は、ものごいをしていた、その人です。生まれつき人が見えなかつた人です」

人が見えるようになった男は大きい声で話しました。

「いや、どのように人が見えるようになつたのですか？」

「イエスという方がどろを作つて、私の目にぬつてください、シロアムの池に行って洗いなさいとおっしゃつたのです。私はそのみことはどおりに洗いました。するとこのように人が見えるようになりました！」

「その人は今、どこにいるのですか？」

「わかりません」

ところが、とつぜん、人々が被の両手をつかんで、パリサイ人のところにひっぱつて行きました。

2



3



金曜日

23

きょうのみことば

使徒 18:1~4

ここで、アクラというポンツ生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウディオ帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろイタリヤから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き自分も同業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。(2~3)

ひとりの人！ひとつのチーム！

算数のテストで、いつも40点以上はとれなかったセイヤは、今日の算数のテストで100点をとりました。同じクラスのともだちのキヨシは、セイヤの算数の点にびっくりしました。

「へえ！おまえ、カンニングしたのか。どうして、100点もとれたの。いったい」

セイヤは、キヨシに休みのときに参加した学業キャンプについて話をしました。それから、キヨシもセイヤといっしょに休みのときごとに学業キャンプに参加するようになりました。

レムナントのみなさん、セイヤひとりが答えを受けたら、キヨシまで影響を受けたでしょう。そして一つのチームを組みました。福音を味わっていれば、このように福音を伝えることができるチームを組むようになります。

聖書を見ると、パウロがとくに、このことが上手でした。パウロは、出会いがあるときごとに、福音を味わいながら受けた答えを話して、伝道チームを組みました。

みなさんは、福音を持っている一つのチームを作るためのコースを歩いてみたくありませんか。それでは、私たちみんながいっしょにしてみましょう。

第1コース、講壇のみことばと<子どもの祈りの手帳>のみことばを読んで黙想すること。

第2コース、みことばを読んで出てきた考えといっしょに、今日一日することと出会いをおいて祈ること。

第3コース、出会いがあれば、みことばと祈りを通して味わったことをもってフォーラムすること。



福音をもった一人をだいせつに思ってくださる神様、私がまず福音を味わえるように、聖靈で満たしてください。私を証人としてくださって、ともに伝道運動をするチームができる働きを見るようさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

●定期祈りの点検：昼12時　教会のために祈りましょう。夜9時　RUTCのために祈りましょう



24日(土)

一つのことにつけてきる人だけが
この世を変えることができるのです

- 平凡な天才バーバラ・マクリントックのお話

おさないとき、いつも「勉強ができない子」、「頭が悪い子」ということを聞いていた人が中学校、高校に上がりながら、いろいろな面で、才能が現れてくる場合があります。

子どものときは、興味を感じなかつたのですが、大きくなりながら勉強に興味を持って没頭することで、まわりの人がびっくりするほど大きな発見をするようになります。

今日は、そのように一つのことにつけてきる人だけが、どれくらい大きい人生の変化があきるかということについてお話をしましょう。

前に話したように、小さいときはだれよりもふらふらしていて、平凡な子どもだったのですが、成長して「集中する力」を持って大きな成功をした人がいます。それが、女性で単独では最初にノーベル賞を受賞した科学者バーバラ・マクリントックです。

一つの分野に深く没頭して、やめずにそれについて研究する道は、本当に大変な道です。しかし、バーバラは自分自身で目標を設定して、それにだけ没頭しはじめたのでした。大人になる前は、ただ平凡な女の子だったのかもしれません、ある瞬間、心にかたく決めたのでした。

「私はこれから、私自身がした約束を絶対に破らない。私はできるという信仰を持って終わりまで挑戦する。たとえ、その道が大変で、孤独だとしても、私は絶対にふりかえることなく、その道を行く。集中することができる人だけが成功することができるから！」

そのように決断したバーバラは、そのときから、いっしょに勉強をしはじめました。いろいろな実験もしてみたのですが、自分にはひとりで研究することを、いちばん合っているとさとて、



❸ 定刻祈りの点検：

昼 12 時

教会のために祈りましょう。

夜 9 時

RUTC のために祈りましょう

ただひとつの道だけをいっしょに歩きはじめました。その結果、彼女は
1927年25歳という若い年で博士の学位を受けました。

このごろは、そんなことはないのですが、そのときは女の人が大学に行って
社会生活をするということは本当にむずかしいことでした。男女差別も本当に

激しかったのです。バーバラはいっしょに勉強をしたの

ですが、いつも生活の心配をしなければなりませんでした。

男女差別のために、ひどい精神的な苦労をしたりもしました。

しかし、「どうもろこし」の中にいのちの秘密を見つける

しなければならないという目標をおいて、それに

向かって挑戦しつづけました。

一つの井戸を掘る人は、ついには井戸を手に入れると

言われるでしょう。また、どんなことでもいいかげんに

する人は、どんな成果も得ることはできないと

言われています。目標を定めたとすれば、

それに向かって最後までしてみるべきです。

バーバラは、結局、ゆれることなく集中したすえに、

世界で最も有名で尊敬される科学者になりました。

みなさんには、今、どんな目標がありますか。目標が

ないならば、今、一度、目標をたててみてください。

「私がとてもよくできること、とてもしてみたいことは

なにかな」そして、その目標を決めたら、いっしょ

けんめいに没頭して集中してみてください。そうすれば、

ついには、その目標を達成してしまいますから。

みなさんがいつも考えて、関心を持って没頭すれば、

その目標もある日、みんなのものになって

いるのです。

文_チョン・ヘンミ 作家 イエウォン教会